

# 心理・コミュニケーション学科

## 《学科の理念・目的》

心理・コミュニケーション学科は、心理学、コミュニケーションの分野を横断的に学ぶことを通じて、分析能力、問題解決能力を養い、人間・社会・世界を科学的に探求し、現代に生きる人間のあり方を考究・提言できる人物の育成を目的とする。 (東京女子大学学則 第4条第5項)

人間にはこころがあり、他者のこころを感じ取りながら行動します。人間にはことばがあり、意思や文化を豊かに効率良く伝えます。現代の人間にはマスメディアや情報機器があり、社会を劇的に変えています。この「こころ」と「コミュニケーション」の視点から現代の人間のあり方を考え、人間が抱える課題を取り上げて学究をするのが心理・コミュニケーション学科です。

本学科では、人間の認知的活動を自分自身の心象、周辺との関係、社会的環境を通して観察し、個人から他者、地域、社会へと展開する人間関係を総合的に探究します。心理学とコミュニケーション科学の分野を横断的に学ぶことを通じて、人間・社会・世界を見る分析力・思考力を養い、科学的探究心をもって、自らも含め現代に生きる人間のあり方を深く考え提言できる統合された知性を育むことを目的としています。

## 《カリキュラムの特色》

心理学、コミュニケーションの2専攻により構成され、人間のこころ、行動、情報と人間のかかわり、ことばとそのメカニズムを科学的方法によって探究する、心理・コミュニケーションの分野の教育を行います。

1、2年次では、心理・コミュニケーション学科で学んでゆく色々な分野について広く学ぶ「入門」とともに、各専攻の基礎となる知識や研究調査方法の習得を目指す「基盤講義」および「基盤演習」を履修し、それ以降のより専門的な学習に対する基礎体力をつけます。特に「基盤演習」は、少人数のクラス編成で、学生自らが主体的に文献の調査や発表、議論を行い、問題解決能力を身につけることを目指します。

2年次以降は、「特殊講義」により、学生が個々の関心に基づいて自らの知識を深めてゆくとともに、少人数での実習による体験学習を通して、心理学、コミュニケーション学の方法論や言語教育の現場に触れることができる「実験・実習」を履修します。最終的に「発展演習」では、学科科目の教育の成果を有機的に統合する形で、個々の学生が自らのテーマを決めて卒業研究プロジェクトに取り組みます。卒業論文は、自らの知的関心や問題意識に沿って研究テーマを設定し、資料・文献をもとに仮説を立て、これを調査・実験・実習等により検証して、明確な根拠とともに提示するという一連の営みを通じて、大学での勉強の集大成として作成します。卒業論文は、自発的な取り組みなしには完成不可能です。各自が問題意識をしっかりと持つことが大切ですので、4年間を通して常に文献を読み、情報を得て、積極的にものを考えるよう心がけることを勧めます。

## 心理学専攻

### 《教育目標》

心理学専攻は、認知、社会、発達、臨床の4つの領域をバランスよく学び、体系的な知識を習得するとともに、実験、観察、調査、面接などによる心理学の実証的方法・実践的方法を身につけ、現代社会に生きる人間の心の諸問題を解決できる人物の育成を目的とする。

### 《カリキュラムの特色》

心理学専攻では、心理学がどのような研究方法で人間の心や行動を解明しようとしているのか、どのような研究領域があり、各領域では具体的にどのような研究がなされているかを学びます。人の心のおもしろさ、不思議さを知り、その奥にある心の働きの法則を探りながら、やがて人間に対する深い洞察に至ることを目標としています。そのために、学生の研究領域を早くから固定することを避け、認知心理学、社会心理学、発達心理学、臨床心理学の4領域を柱として、広い領域についての知識を偏りなくもつことができるような構成とし、実験演習や少人数による演習を重視しています。

**講義**：多くの領域の心理学的知見を踏まえて、初めて人間を全体として理解することができます。

そのため、認知、知覚、社会、発達、教育、臨床の各心理学、精神保健学、および学際的あるいは隣接の領域など、広い分野における重要なテーマや最新のトピックを取り上げた講義が行われます。幅広い分野の講義で、深く人間を理解し、自分の関心を追究します。

**演習**：演習は、主体的に調べ、発表し、他の人の発表を聞き、討論することにより、学び、研究する姿勢を身につけていく重要な学習方法です。1年次の入門的演習を経て、2年次からは自分の関心に沿ったテーマの演習に参加します。少人数グループで自発的に学習する態度を身につけます。

**実験演習**：心理学の学習では、実験・観察・調査・面接等を体験し、データの取り方、その処理の仕方を身につけることが大切です。また、臨床的支援に結びつく、心理的アセスメントについても学びます。心理学専攻では、1年次から4年次まで実験演習の科目をおき、基礎的な実験演習からそれぞれの学生の個別のテーマまで、具体的な研究法の修得を目指します。

講義、演習、実験演習の学習は、お互いにすべてが関連しあっています。一つだけを先に学習しても十分な効果は得られません。心理学専攻のカリキュラムでは、各学年で常にそれらを関連づけ、統合的に、初歩的なレベルから高度なレベルに進んでいくように工夫しています。

4年次では、集大成として卒業論文を作成します。1年次から積み重ねてきた実験演習や他の全ての学びのまとめとして、卒業論文に真剣に取り組むことは後の大きな力ともなるでしょう。

### 《履修法の助言》

#### ■学科および専攻の科目について

「学科・専攻の科目概要（各学年の目標と主な科目）」の表を参照し、各学年の学習がどのように位置付けられているかを確認してください。1年次では、学科入門科目の「心理・コミュニケーション概論」「心理学概論」「コミュニケーション概論Ⅰ」により、心理・コミュニケーション学科を構成する2分野（心理学・コミュニケーション）について広く学び、人間の心のメカニズムや人と社会をつなぐコミュニケーションの問題についての理解を深めます。専攻科目では、「知覚・認知心理学概論」「社会心理学概論（社会・集団・家族心理学）」により、認知心理学、社会心理学の領域についての基礎的知識を習得します。「1年次演習（心理学）」では、入門的な内容のテーマで演習を行い、これから4年間にわたる学びの基礎となる知識や技能（例えば、文献を探したり閲覧したりといった図書館の利用、資料を調べてレジュメを作る技能、プレゼンテーションや意見交換を行うスキルなど）の全般的な習得を目指します。「心理学実験入門（心理学研究法Ⅰ）」と「発達臨床基礎実習（心理学研究法Ⅱ）」では、実験法、観察法、面接法、投影法、質問紙法といった心理学における代表的な研究方法について実習や体験を通して理解するとともに、研究倫理について学びます。「心理学統計法1」では、心理統計の考え方に触れ、記述統計および推測統計について学びます。

2年次では、実証的に人間を理解し探求するための技能と知識の習得を目標とします。同時に、心理学と心理学の関連分野に及ぶ基礎知識の習得と、心理学の各研究領域における専門的な知識の習得も目標となります。「発達心理学概論」「臨床心理学概論」では、発達心理学、臨床心理学の領域についての基礎的知識を習得します。「心理学統計法2」では、研究デザインの計画法や統計的なデータ処理を学びます。単純に手計算でできる分析法もありますが、非常に複雑な計算を必要とする手法もあります。実際の計算は、コンピュータにデータを入力して比較的簡単な操作で実行することができますが、それだけにその分析をどのような目的で使うか、結果をどのように解釈することができるかなどをしっかりと理解していることが重要です。数学的理解は基礎からの積み重ねが大切なので、1年次必修の「心理学統計法1」の単位を修得しないと「心理学統計法2」には進めません。「心理学実験演習ⅠA・ⅠB」では、心理学の基本的な研究方法である実験、観察、調査の技法を習得します。「心理的アセスメント」では知能検査と性格検査の実際を学び、所見の作成の実習をおこないます。「2年次演習(心理学)A・B」では、1年次の演習を踏まえ、心理学の基礎的な内容を題材とした演習を行い、そこで取り上げる心理学のテーマについて深く理解するとともに、より進んだ3年次の演習で必要となるスキルを身につけます。また、2年次から履修できる《特殊講義》は、認知、知覚、社会、発達、教育、臨床の各心理学、精神保健学、およびその他(心理学の隣接領域的なあるいは学際的および先端的なテーマ)の特論が、毎年13科目開講されます。自分が最も強い関心を持って深く学びたいと思うテーマを探し、見つけていくことができるよう履修してください。

3年次では、心理学の全般にわたる基礎知識を土台として、演習とさまざまな領域の講義によって、学生個人が自分自身の関心を深く見つけ、自分の関心に基づいて主体的に専門的な学習を行うことを目標とします。専門的な知識と技能をさらに高めつつ、4年次の卒業論文作成に向けた準備を始めます。「3年次演習(心理学)」では、1年次演習および2年次演習を踏まえ、自分自身の関心に従って希望の領域やトピックを取り扱うクラスに入ります。3年次前期の「心理学実験演習Ⅱ(実験法)・(調査法)・(質的アプローチ)」では、「心理学実験演習ⅠA・ⅠB」および、「心理学統計法1・2」で習得した基本的な研究方法についての技能と理解を前提に、より発展的な研究技法を習得します。3年次後期の「心理学特殊実験演習」は、心理学実験演習の次の段階であり、学生の希望を踏まえてクラス分けを行います。それまでの学習を総合して卒業論文でどのような領域やテーマの研究をしたいかの希望の下に、それぞれのクラスでの卒業論文の土台作りとなるような実験演習を行います。さらに選択科目として、3、4年次対象の「心理学特殊演習(先端)・(応用)」があり、より高度な内容を希望する学生や大学院への進学を考えている学生のために開講されます。

4年次では、卒業論文作成を大きな柱として、一人一人の関心に基づいて実証的な研究を進め、4年間の学習の集大成としての卒業論文を完成させることを大きな目標とします。卒業論文作成を中心として、研究の発想、文献の検索・収集と精読、研究計画の立案と実施、データの定量的・統計的な分析と検定、結果の解釈、論文の執筆といった、さまざまな作業を学生自身が推し進めます。同時に、データ収集に協力してもらう研究参加者との関係の中で、研究や人間に対する倫理的配慮についても自覚できるようになることを目指します。「4年次演習(心理学)A・B」では、先行研究の収集や実験・観察・調査・面接の実施についての具体的で詳細な計画と実行、そして得られたデータの分析など、実験演習の集大成として自分自身の研究の遂行に沿った学習が進みます。

卒業論文は、4年次で全員が作成します。ただし、数人がグループとなり、共同で一つの研究に取り組むことも認めています。心理学の実験・調査では、常に、研究参加者を求める必要があるため、一人一人が十分な人数の研究参加者を求めることはしばしば困難であり、また、実験室・装置などの設備の制約もあるためです。しかし、この共同研究は、一人ではできない大規模な調査、労力のかかる実験や観察などを協力して実施することを可能にし、またアイディアや意見を出し合ってよりよい研究に仕上げていくという有意義な成果もあげています。

卒業論文のテーマの決定は、上記の「心理学特殊実験演習」の説明で述べたように、3年次後半に準備段階に入ります。4年次になると、テーマを確定し、個別の指導を受けながらたっぷり時間をかけて卒業論文に取り組みます。

### ■全学共通カリキュラムとの関連について

**第一外国語科目**：心理学の主要な研究論文の多くが英語で出版されているので、英語文献講読等の基礎能力を養うことは、心理学の学びにおいてもでもたいへん重要です。

**第二外国語科目**：特に言語を指示しませんので、自分の関心に従って履修してください。

**AI・データサイエンス科目**：心理学専攻では、統計的なデータ解析や文献検索等でコンピュータを使用することが多いので、履修を勧めています。

### 《その他》

履修の方法の詳細や資格取得等については、ガイダンス時の説明と配付資料を参照してください。

#### 心理・コミュニケーション学科および心理学専攻の科目概要（各学年の目標と主な科目）

各学年の目標		主な科目（◎必修 ○選択必修△選択科目）
1 年 次	心理・コミュニケーション学科で学ぶ分野について広く知る。	◎心理・コミュニケーション概論 ◎心理学概論 ◎コミュニケーション概論 I
	認知心理学、社会心理学の領域について基礎的知識を習得する。	◎知覚・認知心理学概論 ◎社会心理学概論(社会・集団・家族心理学)
	心理学の実証研究に必要な統計的知識、データ整理および統計分析の基礎を学ぶ。	◎心理学統計法1
	スタディ・スキルの基礎を身につける。	◎1年次演習(心理学)
	心理学の実験法、観察法、面接法、投影法、質問紙法といった研究方法について実習や体験を通して学ぶ。	◎心理学実験入門(心理学研究法 I) ◎発達臨床基礎実習(心理学研究法 II)
2 年 次	発達心理学、臨床心理学の領域について基礎的知識を習得する。	◎発達心理学概論 ◎臨床心理学概論
	心理学の実証研究に必要な統計、分析などの技能と知識を習得する。	◎心理学統計法2
	観察、面接、実験、調査などを通して、心理学の基本的な研究方法を理解し習得する。知能検査や性格検査を体験的に学び、総合的な所見を作成する力を身につける。	◎心理学実験演習 I A・I B ◎心理的アセスメント
	取り上げた心理学のテーマを深く理解するとともに、3年次演習で必要なスキルを身につける。	◎2年次演習(心理学) A・B
【2・3・4年次共通】 心理学の各研究領域における専門的な知識を習得する。	○特殊講義の各科目	
3 年 次	4つの研究領域に分かれて、それぞれの心理学の発展的な内容について深く理解するとともに、卒業論文に向けて主体的に学習に取り組む力を養う。	◎3年次演習(心理学) 【3・4年次共通】 △心理学特殊演習(先端)・(応用)
	より発展的な研究技法を習得する。	○心理学実験演習 II (実験法)・(調査法)・(質的アプローチ) 【3・4年次共通】 △心理学実験演習 III (実験法)
	卒業論文における研究に必要な専門的な知識や技能を習得する。	◎心理学特殊実験演習
4 年 次	一人一人の関心に基づいて実証的な研究を進め、4年間の学習の集大成としての卒業論文を完成させる。卒業論文における研究を中心として、研究の発想、文献の検索・収集と精読、研究計画の立案と実施、データの定量的・統計的な分析と検定、質的データの分析結果の解釈、論文の執筆といった、さまざまな作業を学生自身が推し進める。	◎4年次演習(心理学) A・B ◎卒業論文

## コミュニケーション専攻

### 《教育目標》

コミュニケーション専攻は、刻々と変化するメディア社会、情報社会、多文化社会で生きるために、主体的な学びを通して批判力、発想力を高め、再現性のあるデータに基づいて論理的に思考し、行動できる人物の育成を目的とする。

### 《カリキュラムの特色》

現代社会の様々な特性や問題を、コミュニケーションという切り口で学際的に幅広く体系的に学べるよう構成されています。具体的には次のような領域における学習ができます。

- SNSを含むメディアリテラシー
- メディアの影響
- 情報通信やインターネットのより良い利用
- ユーザー中心に現代の情報技術社会をデザインする方法
- 多文化共生社会のデザイン
- ダイバーシティを理解するための心理学
- ことばとコミュニケーション

演習・実習をコアに据えた、少人数で一人ひとりを大事にした密度の濃い指導を行います。客観的・実証的な視点から社会の諸問題に取り組むことができるように、研究法入門、データ分析法、研究法実習、社会調査法実習などの科目群を置き、調査法・実験法などの研究手法を用いて、体系的・論理的な思考力を養います。また、情報通信に関する技術を修得するためのアプリ作成入門、ICTリテラシーなどの科目群では、最新の装置や環境で実践的技術を学ぶことができます。卒業研究では毎年、学生たちが様々なテーマを見つけて興味深い研究をしています。

### 《履修法の助言》

#### ■学科および専攻の科目について

「学科・専攻の科目概要（各学年の目標と主な科目）」の表を参照し、各学年の学習がどのように位置付けられているかを確認してください。1年次では、学科入門科目の「心理・コミュニケーション概論」「心理学概論」「コミュニケーション概論Ⅰ」により、心理・コミュニケーション学科を構成する2分野（心理学・コミュニケーション学）について広く学び、人間の心のメカニズムや人と社会をつなぐコミュニケーションの問題についての理解を深めます。

専攻科目では、「コミュニケーション概論Ⅱ」の3科目により、コミュニケーションの3分野、メディアコミュニケーション、情報デザイン、多文化コミュニケーションの基礎的知識を修得し、幅広く基礎的な知識を養います。《基盤演習》「1年次演習（コミュニケーション）」でコミュニケーション学への入り口として、文献を探して読み込み、批判的に考え、発表し、議論することを通して、学習の仕方のみならず自分の意見をまとめプレゼンテーションを行う力も養います。演習という授業形式に初めて参加し、高校までの学習スタイルから批判的で主体的・探索的な学習スタイルへ変わる訓練を行います。演習では、教員だけでなく受講生も主体的に授業の内容を構成してゆきます。学生同士の活発な議論と教員のきめこまかな指導により、自分のテーマに積極的・意欲的に取り組んでいくことを期待します。「先端トピック概論（コミュニケーション）A・B」は、現代的なトピックを扱い、各自の関心により各研究領域の専門性のある知識を得ることで、自らの研究テーマを考える第一歩とします。

2年次では、「コミュニケーション統計法1・2」「コミュニケーション研究法入門」（いずれも必修科目）で、実証的な研究方法の基礎を学びます。学際的なコミュニケーション研究分野においては、質問紙調査、実験、内容分析、質的研究、談話分析など多様な研究方法があります。実証的研究を重視する本専攻では、どのような領域の研究であれ、方法論的知識と能力を身につけることを目標としています。「コミュニケーション統計法1・2」「コミュニケーション研究法入門」の履修により、コミュニケーション学で用いる研究法の概要をすべて学び、人間科学・社会科学の方法論を網羅的・体験的に理解します。「2年次演習（コミュニケーション）」では、英語文献を読む学習も大切です。テーマ別に各専門領域に分かれ、コミュニケーション研究について視野を広げる《基盤演習》として位置付けられます。同時に、2年次以上を対象とする《特殊講義》（コミュニケーション各論）による専門性の高い講義で幅広い知識を得て、自分のテーマを考えていくこととなります。2年次では、一つの専門領域にとどまることなくコミュニケーションに関する幅広い知識を習得することが望まれます。

3年次では、より専門的な卒業論文作成にむけて研究法を活用し、自らの研究テーマがみつけれられるような演習・授業が中心となっていきます。「3年次演習（コミュニケーション）I・II」では、自分のテーマを卒業研究プロジェクトに組み立てていくために、先人の問題意識や方法論を文献から学ぶことが中心となります。「コミュニケーション研究法実習」の各科目では、自己の研究テーマに沿った方法を4種類の研究方法から選択し、より実践的にデータを収集・分析・報告するスキルを修得して卒業研究の準備とします。

4年次では、3年間で学んだ諸知識を十分に反映させて「4年次演習（コミュニケーション）I・II」、「卒業論文」に取り組みます。3、4年次の演習は、自分の問題意識に意欲的に取り組んでいくことができる専門的な《発展演習》で、「卒業論文」につながるものです。4年次演習は、原則として3年次と同一担当者の演習を継続履修します。なお、演習によっては特定の授業科目の履修を指導する場合があるので注意してください。

#### ■全学共通カリキュラムとの関連について

**第一外国語科目**：多文化の学習・研究の基礎を作るものです。専攻で扱う多くの研究や資料は英語でしか入手できないことも多く、「2年次演習（コミュニケーション）」では英語の文献資料を講読して発表やディスカッションを行っています。

**第二外国語科目**：特に言語を指示しませんが、多文化の学習・研究の基礎を作るものです。例えば、中国の新聞や韓国のメディアを扱う場合は、「中国語」や「韓国語」の学習が必要となります。

**AI・データサイエンス科目**：情報デザインの学習・研究と密接な関係にあります。必修の「DS・ICT 入門 I・II」では、AI・データサイエンスの基礎を学び、情報技術のベースライン作りが行われます。専攻の情報研究の内容と相補的に働き、より深く学習を進めることが可能となりますので、「コンピュータ・サイエンス I・II」等の選択科目の履修を推奨しています。なお、本専攻では「DS・ICT 入門 I・II」の単位修得を4年次への進級条件としています。

#### 《その他》

履修の方法の詳細や資格取得等については、年度初めのガイダンス時の説明と配付資料を参照してください。日本語教員養成課程の必修科目は、専攻の専門科目になっているため、課程が修得しやすくなっています。詳細については、日本語教員養成課程事務室にてお問い合わせ下さい。

## 心理・コミュニケーション学科およびコミュニケーション専攻の科目概要（各学年の目標と主な科目）

各学年の目標		主な科目（◎必修科目 ○選択必修科目）
1 年 次	心理・コミュニケーション学科で学んでゆく色々な分野について広く知る。	◎心理・コミュニケーション概論 ◎心理学概論 ◎コミュニケーション概論 I
	スタディ・スキルの基礎を身につける。	◎1年次演習(コミュニケーション)
	コミュニケーションの3領域に関する基本的な考え方を身につける。	◎コミュニケーション概論 II (メディア)・(情報デザイン)・(多文化)
	コミュニケーションの3領域に関する研究の先端的内容について知る。	○先端ピック概論(コミュニケーション)A・B
実習を通して論理的な思考を身につける。	○アプリ作成入門	
2 年 次	研究法の基本を身につける。	◎コミュニケーション統計法1・2 ◎コミュニケーション研究法入門
	英語文献を読むことにより、コミュニケーション研究について視野を広げる。	◎2年次演習(コミュニケーション)
	<b>【2・3・4年次共通】</b> コミュニケーションの研究分野に関連するスキルを学ぶ。 専門知識を得つつ、専門内の視野を広げる。	○特殊講義 (コミュニケーション各論の各科目)
3 年 次	コミュニケーション研究法を深め、活用できるレベルにする。	○コミュニケーション研究法実習・社会調査法実習・多変量解析の各科目
	自分の研究テーマをみつけていく。	◎3年次演習(コミュニケーション) I・II
	<b>【2・3・4年次共通】</b> コミュニケーションのそれぞれの領域の専門的な内容について理解をすすめる。	○特殊講義 (コミュニケーション各論の各科目)
4 年 次	これまでの学習を有機的に結合し、研究プロジェクトという形で自らがテーマとする問題に取り組み、実証的データの裏付けをもって論理的に学んだ成果を表現することができるようにする。	◎4年次演習(コミュニケーション) I・II ◎卒業論文